

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 4244
22年4月22日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

Dcat導入 1年 「安全推進ツール」として機能しているのか

Dcatは「社員の命を守る」ための「安全推進ツール」として活用されたいでしょうか。



後なら助かった命が、1時間15分後では手遅れだったというケースもあると思います。

またDcatは、危険箇所等を地図上に登録できるほか、自動習得したデータに基づき、急加速・急減速、速度超過の発生しやすい道路を把握することが可能です。それらのデータを活用し、社員育成・育成対象者の走行状況（アラート発生箇所・運転速度）や走行軌跡を他の社員と比較し、具体的なアドバイスを含む対話に活用する、となっています。

さて今回、新たに増配された端末は搭載センサーが異なるのか、使用した社員からは従来とは比較にならないほど急加速・急減速アラートが出ると聞きます。一方、増区や通配区の応援など通配として携行した場合は、従来とさほど変わらないという話も聞きます。センサーが高性能となっただけでは、混合担務時の非常に多い回数は説明できません。



4月より、一日のアラート回数を急加速・急減速ともに2回以内を目指すと言われています。多い社員には指導するとも言われました。混合担務者のそれは2回どころではありませんが、どういった指導をするのでしょうか。

支部は、混合担務者に多く出るのは、混合担務では時間帯指定などに追われ、「やむを得ず」、「急が付き運転」になっているのだと考えます。長中局は今年「時間帯不遵守」の改善指定局になっていて、「時間帯」遵守は厳命です。机上の計算ではどうか知りませんが、業務量に対して少ない人数で配達し無理が出ていると言えます。



せっかくDcatが、配達状況を教えてくれるのです。「単なる監視」ではなく、混合業務の現状を把握し、安全遂行の為に活用してほしいものです。

今回長中局に追加配備されたスマホ端末は30台。一台5万円として150万円。全国での追加配備数は不明ですが、仮に2千台配備されたとしても1億円。私が株主だったら、費用対効果の収支表を求めますね！！

おはようございます。集配の職場で昨年4月より「Dcat（ディキヤット）」が本格導入されました。当初は通配区担務に導入でしたが、今年4月からは小包を含む混合担務にも導入されました。今回の導入で集配営業部社員のほとんどがDcatの監視下に置かれることとなります。

私たちは郵政ユニオンは一年前の4月2日の「未来」で「Dcat（ディキヤット）」本格導入「監視」となるか「安全推進」となるかは運用次第」と、Dcat導入に対する問題を指摘しました。

Dcatの「開発コンセプト」は「社員の命を守る」で、「安全推進」が「効率的な応援体制」とともに必要性のトップに挙げられています。導入後一年経ちましたが、

他局では「転落し消息不明となった社員の早期発見につながった」という例があったと聞きます。しかしこの例も「長時間停止60分」後、アラートが発信されて異変に気づき、捜索・発見したというものでした。位置情報で場所が特定できていたため早期発見につながったわけですが、発見は事故後1時間以上経った後でした。

一方、運転評価レポートに基づき「15分以上停止」したとして、前の週の行動説明を求められます。こちらは「60分ではなく「15分」です。「安全推進ツール」というなら「15分」停止でアラート受信、「社員の安全を確認する」と、しなければならぬと思いません。異常発生から30分

しかし長中局では安全推進ツールとしてではなく、社員の監視ツールとしてのみ使用されていると言っても過言ではありません。

前述の「15分以上」停止状態はアイコンで表示されますが、心配した管理者から連絡があったという話は聞きません。また休憩時間の直前に、まだ配達地域にいることが表示されても連絡があ

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。ゆげが、均等待遇を、なげんを差別。ユニオンは労基法裁判に勝利を！